

1 整備方針策定の趣旨

□ 策定の目的

(仮称) 平出町停留場の周辺については、LRTの車両基地等が整備されるなど、本市の更なる発展につながるポテンシャルを有したエリアであることから、LRT沿線における多くの人とモノが行き交う新たな交通結節拠点として、LRT利用者の利便機能や交通結節拠点にふさわしい交流機能などの導入を図るため、拠点整備に当たっての本市の基本的な考え方等を示す「(仮称) 平出町トランジットセンターゾーン整備基本方針」を策定する。

2 上位計画における位置付け

○ 第6次宇都宮市総合計画

「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指し、地域特性を踏まえた拠点の形成や拠点間の連携・補完を図る交通ネットワークの強化を一体的に進めることとし、特に、鉄道駅やLRTのトランジットセンターなどの交通結節点周辺は、地域特性を生かした交流促進等につながるよう、拠点化を促進する。

○ 第3次宇都宮市都市計画マスタープラン

LRT等の新たな交通結節点となる(仮称) 平出町停留場周辺のトランジットセンターゾーン(以下「TCゾーン」という。)では、停留場や駅前広場、駐車場等と一体となって、LRT利用者のための利便機能や交通結節拠点にふさわしい交流機能などの導入を進める。

○ LRT沿線の土地利用方針 ～(仮称) 平出町停留場周辺～

多くの人やモノが行き交うポテンシャルを有するLRT施設を中心としたTCゾーンにおいては、LRT利用者の利便機能や交通結節拠点にふさわしい交流機能などの導入に向け、LRT整備と一体的に取り組む。

4 整備の基本方針

□ 整備の基本方針

新たな交通結節拠点として、LRT沿線を始めとする地域の発展を目指し、本市のまちづくりのシンボルとなる拠点を形成する。

【コンセプト】

『LRTを利用し日常に楽しさをプラスする賑わいと交流の拠点』

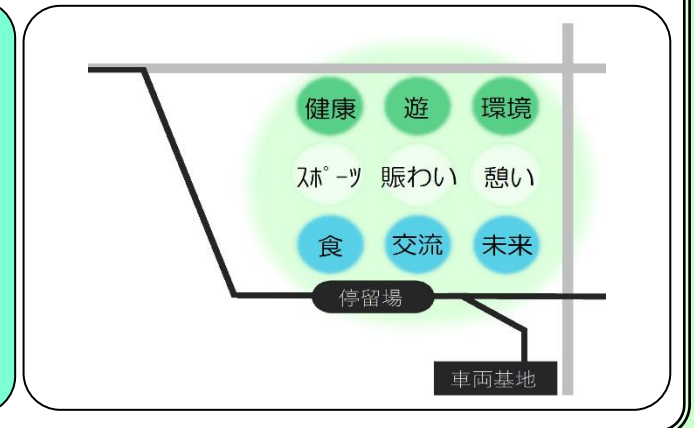
【拠点形成に当たって考慮する視点】

- ◆ LRTの利用による日常生活の充実
- ◆ 環境負荷の少ない低炭素型まちづくりの推進
- ◆ ICT等の先進技術を活用したまちづくり

5 導入機能の基本的な考え方

LRTのある日常に楽しさをプラスすることから、多くの世代が「する」、「見る」、「支える」の主体となり、みんなが楽しみ、交流が生まれる機能として、本市が推進している3x3などアーバン(都市型)スポーツを基本とするとともに、周辺地域の振興や他地域との交流にもつながる機能の導入を図る。

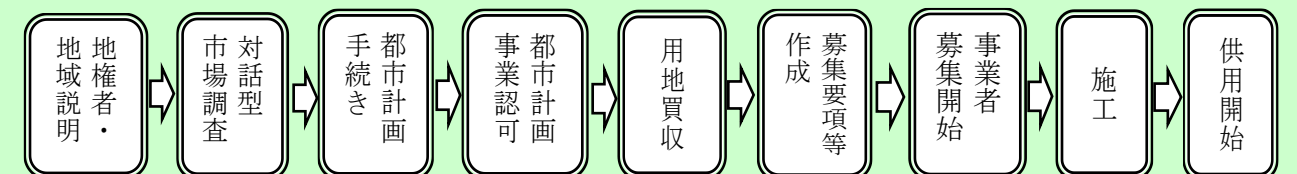
- 交流と賑わいを創出する機能  
⇒ 多くの世代からの需要の高いスポーツや健康づくりを主とした機能の導入を図る。  
例：3x3、スケートボード、BMX等
- 地域の振興に資する機能  
⇒ 地元の多様な農産物などの地域資源をフル活用した機能の導入を図る。  
例：農産物の直売、カフェなどの飲食施設等



6 施設整備の基本的な考え方

- 本市中心部などの市街地と鬼怒川左岸地域の市街地を連絡し、多くの人が行き交うLRTの沿線の重要な位置にあることから、市民の多様なレクリエーションニーズに対応するため、これからのまちづくりをけん引する新しい公共空間・オープンスペースとして都市公園を整備する。
- 施設整備については、利用者にとって、より利便性や快適性が高いものを導入するとともに、市の財政負担を軽減するため、民間活力を最大限に活用し整備する。
- 民間活力の活用に当たっては、公園内において民間の収益施設の立地を可能とし、施設の質の向上や、利用者の利便性の向上を図れる「Park-PFI」の活用を基本とする。

7 今後の進め方



3 TCゾーンの現況等



ア 新たな交通結節拠点としてのポテンシャル

LRT整備や同整備に伴うバス路線等の再編により、利便性の高い公共交通ネットワークが形成され、交流人口の増加が促進されるなど高いポテンシャルを有している。

イ 立地特性を生かした新たな価値の創出

市街地内では創出することのできない規模の土地利用が可能であり、周辺の環境等を保全しながら、都市的環境と農村的環境を生かした新たな価値を創出できる。

項目	内容
所在地	宇都宮市平出町, 下平出町の一部
区域区分	市街化調整区域 容積率200%, 建蔽率60%
その他	農業振興地域農用地